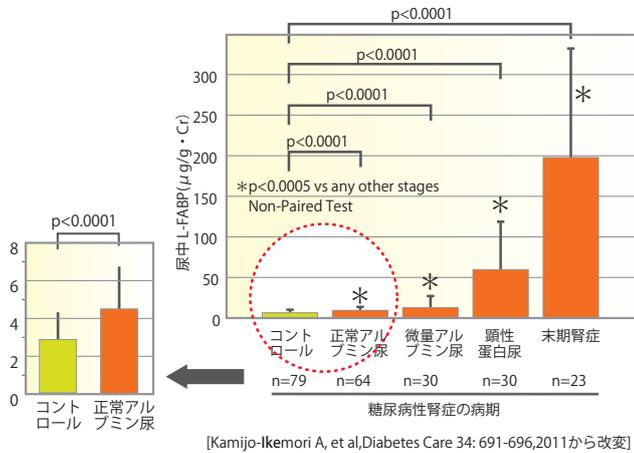


慢性腎臓病

▶CKD(慢性腎臓病)の早期判別に

糖尿病性腎症のステージ別にみたL-FABPの推移

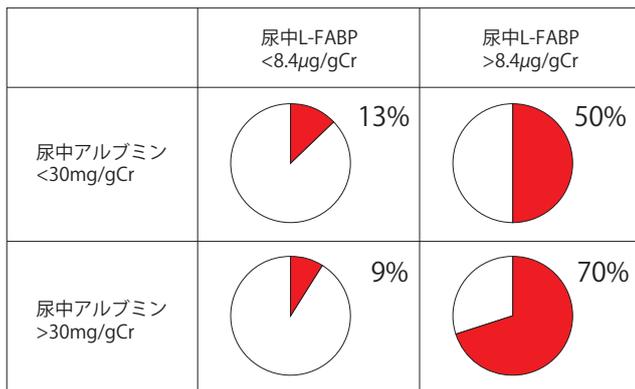


対象 糖尿病性腎症患者 147例
方法 上記症例に対し、病期により層別し平均および、標準偏差を算出、健常者(コントロール)におけるL-FABP値を併せて示した。

◆糖尿病性腎症患者のL-FABP値は、病期の進行と共に増加。L-FABP値は、健常者に比べて腎症早期より高い値を示していることから、糖尿病性腎症の早期診断に有用である。

▶CKD進行リスクの高精度判別に

糖尿病性腎症が進行した割合



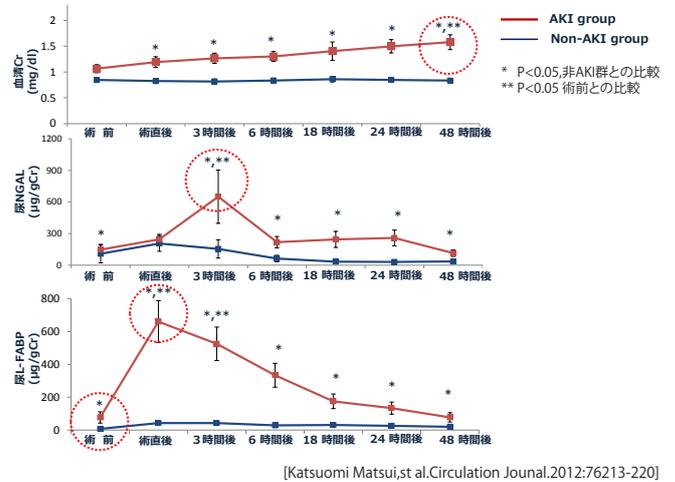
対象 2型糖尿病患者 104例
方法 上記症例に対し、4年間の追跡を行った。

◆同じアルブミン尿期でも、尿中L-FABPが高い患者では約7倍腎症の進行リスクが高い。
 ◆尿細管機能を反映するL-FABPと、糸球体障害の指標である尿中アルブミンを同時にモニターすることで腎機能の病期の予測を高い精度で判別できる。

急性腎障害

▶心血管手術後でのAKI発症予測に

心血管手術を受けた患者におけるAKI発症を予測

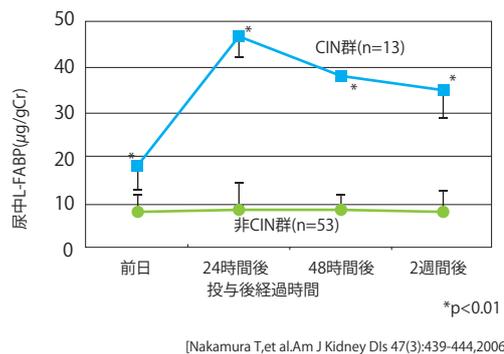


対象 心血管手術を受けた成人 85例
方法 上記症例において、AKI群、非AKI群の各バイオマーカーの術前・術後測定データを比較した。

◆従来のマーカーと比較すると術直後および術後3時間でL-FABPの値は有意に高かった。
 ◆術前の段階であってもL-FABPの値が高い患者ではAKI発症リスクが高いことが示唆された。

▶造影剤腎症の発症予測に

造影剤腎症を発症した症例のL-FABPの変動



対象 心臓カテーテルを受けた成人 66例
方法 冠動脈造影前後の尿中L-FABP値を比較した。(AKI患者、末期腎不全患者などを除く)

◆造影剤投与前から尿中L-FABP値が高い患者では造影剤腎症を発症しやすい。
 ◆造影剤腎症を発症した患者では24時間後の尿中L-FABP値が有意に上昇した。